



CONTENTS

ごあいさつ H.C.R. 2006へ向けて、
 次回開催 H.C.R. 2006/1
 第32回国際福祉機器展 H.C.R. 2005 報告/2
 出展製品、シンポジウム、子どもの広場/3
 特別講習「高齢者の食を考える」、
 特別セミナー「福祉機器 選び方・使い方」/4
 ワークショップ/セミナー、相談コーナー/5
 来場者アンケート/6

国内出展社アンケート、
 海外出展社アンケート/7
 広報、PR活動、車いす貸出コーナー、
 シャトルバス/8

編集・発行:財団法人 保健福祉広報協会 Publisher: Health and Welfare Information Association

住所:〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル TEL.03-3580-3052 FAX.03-5512-9798 定価1部 200円(消費税・送料込)

<http://www.hcr.or.jp>

ごあいさつ ~H.C.R. 2006に向けて~

Greetings ~Moving Towards H.C.R. 2006~

H.C.R. 2005は、17か国・地域より630社にご出展いただき、13万人を超える来場者を迎えることができました。関係者の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

2005年は、今後の福祉・介護制度を大きく変える動きがいくつかありました。春には介護保険法が改正され、「自立支援」のための予防重視型システムに転換されることになりました。秋には障害者の福祉サービスを一元化する障害者自立支援法が成立しました。そして、三位一体改革により、福祉制度も地方自治体による運営へと移行してまいります。

これらの多くが具体化される2006年は、わが国の福祉・介護制度の大きな転換期であります。こうした改革の流れは21世紀の少子高齢化が及ぼす社会的な影響への対応です。

このような諸改革は誰もが住み慣れた住居や、地域で自立した生活を送れるための社会システムの再編を実現させるものでなければなりません。利用者中心の具体化が図られるよう、取り組んでいく必要があります。

21世紀の希望の1つに新しい技術の成長があります。IT技術に代表されるように、情報を自在に使える時代が到来しております。同様に利用者の自



立生活の可能性を拓ける福祉機器は、身体機能の衰えた高齢者や障害者の日常生活において欠かせない存在となっております。また、介護を手助けする福祉機器に対する関心が高まっています。

福祉機器を有効に活用するためには豊富な知識と経験を持った専門家やスタッフによる指導やアドバイスが不可欠です。サービス従事者の十分な確保と資質向上を併せて図っていく必要があります。

さらに福祉機器の開発のためには、利用者の声を常に反映していく必要があります。

本会では、国際福祉機器展を通じて、世界の福祉機器に関する情報発信とともに、適切な福祉機器の選び方・使い方の知識の普及、さらに福祉機器の利用者、メーカー、福祉サービス従事者たち



の国際交流を図ってまいります。

2006年におきましては、これらを一層推進し、高齢者と障害者の自立を促進するための環境づくりに努めてまいります所存です。

今後とも皆様のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

財団法人 保健福祉広報協会
 理事長 末次 彬



次回開催 第33回国際福祉機器展 H.C.R. 2006

Next 33rd Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2006

H.C.R. 2005は述べ来場者135,825人となりました。出展企業、団体をはじめ関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

今回のH.C.R. 2006は、平成18年9月27日(水)~29日(金)に、東京ビッグサイトにて開催いたします。

本会では、今後とも福祉機器の開発と普及に向け努めてまいりますので、引き続き、関係各位のご協力、ご参加をよろしくお願い申し上げます。

- 会 期
平成18(2006)年9月27日(水)~29日(金)
- 会 場
東京ビッグサイト 東ホール
- 出展募集
平成18(2006)年2月1日~3月31日

